



# 西条



2024-2025 年度国際平和ポスターコンテスト

テーマ ～ 限らない平和 ～

子ども一人ひとりを通じて、世界に  
平和をもたらそう

2024-2025

No. 11  
569 月号

国際会長テーマ  
メッセージ  
336-A地区スローガン  
ガバナーズスローガン  
キーワード  
会長スローガン  
キーワード

「 WE SERVE 」  
「 足跡をしるす 」  
「 地球を守る、人を護る 」  
「 自信と誇りをもってウィサーブ 」  
「 躍進 」  
「 未来に向けて、新たな気持ちで We Serve 」  
「 安心 」



環境保全・保健福祉委員長 村瀬文隆

恒例の早朝例会前に清掃奉仕を旧トリム公園周辺で行いました。  
 当日は、快晴とまではいきませんでした、秋らしい良い天候でした。  
 例年と同じく、ごみはあまり落ちていませんでした。西条市民の民度の高さを表しているということなのでしょう。  
 早朝から多くのメンバーに参加いただきまして、厚く御礼申し上げます。  
 ありがとうございました。



献血奉仕 ～ 献血は“いのちのリレー”です。あなたの行動が誰かの役にたっています ～

2024.10.5(土)10:00～16:00 於～フジグラン西条駐車場 アクティビティー

これまでは平日に行っておりましたが、試験的に土曜日に行いました。  
 理由は、休日のほうが人の動きが多く買い物ついでに献血をしてもらえる方が増えるのではないかと考えたためです。実際に人の動きや車の出入りは、平日より明らかに多かったです。  
 そのため、西条ライオンズクラブの活動の周知や、献血応募者の裾野を拡げるという意味ではメリットがあったと思います。半面、献血予約者が平日で行うより3割くらい少なかったこともあり、人数が読めないのが目標数に到達できるのか、終わるまで不安に思いながらの事業でしたが、献血者数も平日に行った時とほぼ同じ結果となりました。  
 また、今回は能登半島地震・豪雨災害復興支援募金活動も合わせて行いました。  
 2リジョンアラート委員 織田さんに現地での支援活動状況がまとめられた大型パネルをお借りし、会場内に展示、献血にご協力いただいた皆様に支援の協力もいただくことができました。募金額は4,984円です。クラブで現在活動中の募金と合わせて能登へ送金したいと思います。  
 不安を感じながらですが、目標は何とかクリアすることができたことは良かったです。  
 携わっていただいた皆様のおかげさまをもちまして、大変良い事業になったと思います。  
 厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



400ml 献血	101名
不採血	9名
来場受付	110名



次回の献血は・・・  
 2025年  
 3月6日(木)  
 於～フジグラン西条

アラート委員長 日野克則  
西条ライオンズクラブとして2度目となる「ワクリエマルシェ」に参加しました。

当日の空模様にヤキモキしましたが雨にも会う事なく、なんとか1日持ちました。

今回は、土曜日開催という事、その上に献血事業と重なったこともあり、参加できるスタッフが少なく心配いたしました。ふたを開けてみれば常に4人は出展テントにメンバーを確保することができ、最後まで販売することができました。

クラブメンバーのここぞと言う時の協力体制に感謝です。

今回は「蛇口からポンジュース」、「ドリップアイスコーヒー／ホットコーヒー」、そして新たに雑誌付録の物品販売を試みました。これが大変好評でした。

購入いただいたお客様が、見に来た新規のお客様に商品をどんどん勧め、気がつけば売り場の前に人だかりが…。たくさん売れて、今回は資金獲得が少しできました！

しかし、ジュースの売り上げは前回に比べるとそれほど暑く無かったせいもあるのかもしれませんが、飲み物が100杯程度と前回に比べ少なくなりました。出店が2回目と言う事もあり、準備も慣れてきました。

お客様から「次はいつ来ますか？」とのお声もいただき嬉しい限りです。

西条ライオンズクラブの知名度アップも期待できるこの事業、特に物品販売は、毎回したら良いと思いました。

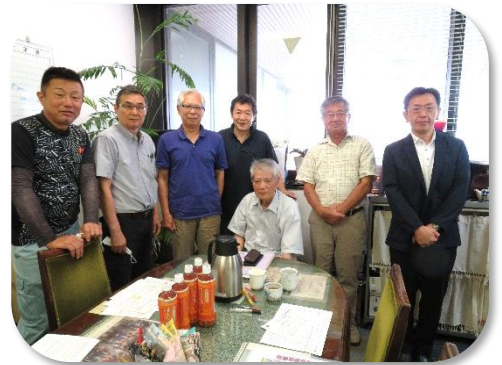


また来てね～♪



萬條教室同好会は、毎月第1木曜日、当日配布された資料を基に萬條克己先生のご高説を拝聴し、西條の歴史について勉強をしています。

第60代宮崎会長が組織した「MC/広報委員会」活動の一環として萬條教室が始まりました。写真は創立当時のものです。あれから4年、萬條教室同好会が発足、新たなメンバーも加わり活動を続けています。



さて、西條の地名は歴史的に見て大化の改新によって実施された条里制によるといわれています。大化2年(646年)、今まで豪族の私有していた土地や人民を朝廷に返させ、朝廷直属のものとした。班田収授の法を作り、与える土地は条里制によって分割した。『西條市誌』に新居浜市角野にある深谷寺に『上島山より西を西條といい、東を東條という。』記録があったが、なくしてしまったという。天正13年(1585年)にあった秀吉の四国征伐で人と共に社寺も失われ、諸記録も多く滅びた。だが、建保6年(1218年)の予章記に『河野実勝(あるいは真勝)西條御館(おんやかた)』と書かれていて、一方東條の名は新居浜市泉川町喜光地の小字に東條の地名が残っている。

では次に「西條」という地名が実際にいつ頃から使われ始めたかということですが、河野氏の歴史を描いた「予章記」の3行目に「かねてまた伊与国守護職ならびに新居西條両庄の事」という西條の地名が出ています。下の方に左近衛中将、即ち源実朝です。この源実朝が霜月一日に河野氏に宛てた手紙が「予章記」に出ています。このことが、「西條庄」が記録に見られる最初ではないかと考えられています。ところが実は、この実朝の書状というものは本物ではないのです。そもそも源実朝という鎌倉幕府の将軍が当時河野氏という地方の一武士に書状という形で文章を出すということはまず考えられませんでした。命令文章を出すことはありました。書状というのは基本的には、対等の立場にあるもので遣り取りするものですから、将軍が河野氏に書状を出すことはありません、この実朝の手紙というものは信用できない訳です。

又「予章記」の記事は鎌倉時代のこととして書いてありますが、「予章記」が出来たのは、実は戦国時代です。このことにより、戦国時代に西條庄という言葉が使われていたと言えますが、鎌倉時代の初めから使われていたとは考えられません。

それでは間違いのない史料で、どの辺まで遡れるかということ「沙門心恵」という人が備中入道という人に宛てた書状があります。これの冒頭の部分に「新居西條庄」という言葉が出ております。

この沙門心恵という人は、禅宗の有名な僧侶で1306年(徳治元年)に亡くなっています。この事からこの書状は1306年より前のものであることは間違いのない。鎌倉幕府の滅亡は1333年(正慶2年)ですので、鎌倉時代の終りに近い頃には「西條」という言葉が信憑性の高い史料の中で使われていたことになる。

このことにより「西條」という地名が一番最初に出てくるのは鎌倉時代の終り頃であるといえます。

参考：稲満村(中世)とは、

…沙門心恵書状(覚園寺文書/神奈川県史資料編2)に「伊予国新居西條庄八箇村…稲満村、覚園寺領、本家…」(西條市誌 P71)(山内謙、西條史談会創立20周年記念講演)

ここで1つ、西條には「神拝」という地名がありますが、何故「神拝」という地名が起こったか。

神拝の地名の起こりについては、『西條誌』に次のように書かれています。

「昔、石鎚へ登る者は、五月晦日の夜、石鎚山頂の下の夜明に集まり、明方近く松明を持って、頂上へとよじ登った。参加することのできなかった人々は、この村に集まって、よじ登る松明を仰ぎ見て、頂上にまつてある石鎚の神を、はるかに拝んだことから、神拝の名が起こったという」

昔は高い建物もなく、前山の彼方に連なる四国山脈の中心にあって、ひときわ高くそびえる石鎚山を、最も荘厳に望めることのできる地であったのであろう。

西条小学校(元西条尋常小学校)の周辺部も戸籍上神拝乙と呼ばれているが、その昔、この土地のあたりからも石鎚山の松明を拝んでいた名残ではないだろうか。

## ① 大町の地名について

先月 No, 567—9 月号「いいおかの歴史(其ノ壱)」には、奈良時代から南海道(太政官道)の整備が行われ、伊予国では国府や国分寺、国分尼寺が現在の桜井駅うら辺りにあったとあります。現在でも飯岡の地名に「東大道、西大道」旧東予市石田に「大道の下」の名前が残っています。又、この時代条里制度の実施、聖武天皇による奈良の東大寺大仏殿が創建されています。

(752年)

飯岡からの太政官道は大町福武の山麓に延び、加茂川を渡り、伊曾乃台地の麓を通り橋新宮神社の辺りを經由して、野々市の千人塚の横を通り氷見に抜けていたのではなかろうか。

大町の地名については石井武司著「大町よいとこ」に和田家の古い記録をもとにして次のように書かれている。

「加茂町和田氏の先祖和田新兵衛義根(よしたね)は伊予郡松前町に住んでいたが、仏門に入って浄式といった。天正期の初め(1573年頃)新居郡西条庄に荒原があり、浄式は伊予国湯築(守護家)城主河野伊予守道直に荒原開墾許可を願い、許しを得て田畑を開拓し、故郷の地名をそのままとって大町と名付けた。

たまたま、隣り村中野に水害があり、災害に遭った農商民が大町に移り住んで、一つの村ができた。浄式は天正4年(1576年)に亡くなっているから、大町の地名の起こりは、天正の初めころ、今から450年余り前であろう」といわれる。

その後、浄式は今治の来迎寺から閑居上人を迎えて住持とし、大念寺を開いた。

最後は伊予郡松前町に帰って病没した。

『西條誌』には、寛永13年(1636年)一柳道重公が西條に陣屋を築かれるまで、しばらく大町に仮館を設けて住んでおり、そのころには既に、北之丁、西町、中町、川原町、下町等の町名があったという。

なお、当時加茂川の流れは4~5本に分流され、中野舟形から右岸落ち切りに流れ、現在の福武西の川原から新田、天皇、沢、明神木を經由して、御舟川に注いでいた。

大町小学校の東、西方面は荒原であったと想像して頂きたい。

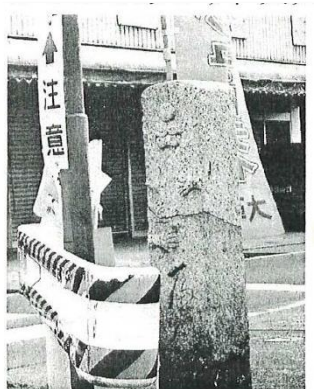
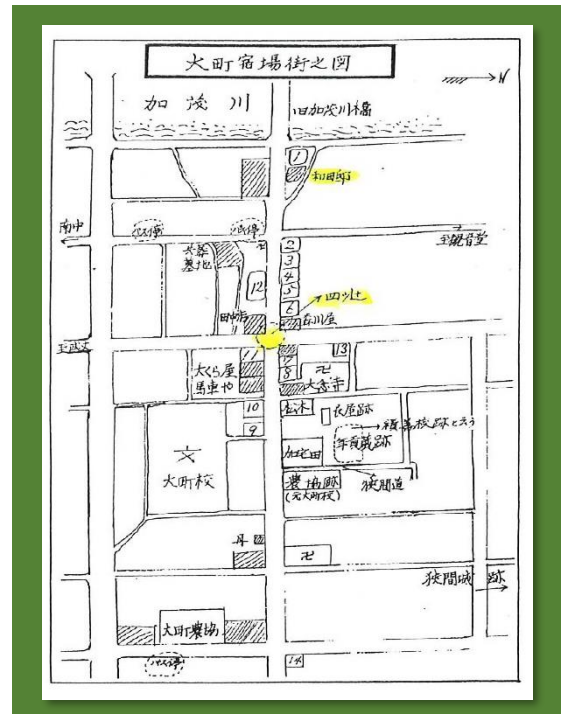
大水の度、乱流する加茂川の水害に領民が苦しんでいたため、西條・光明寺の常真法師が中心となり加茂川付け替えの嘆願書をもって領主・加藤嘉明に訴え続けた。

その結果、関ヶ原の戦いの15年後、慶長20年(1615)4月22日、嘉明の命を受けた普請奉行足立重信が新居郡における重要な「人足割り当て」を定め徴用していることが、愛媛県生涯学習センターの『愛媛人物博物館』で紹介されている。

おそらくこの記述が加茂川の背筋工事(付け替え工事)を指し、長期に亘って背筋工事が行われたと推測する。入江常真の嘆願により、領主嘉明の許可を経て足立重信の指導により、加茂川は北方向から、現在の西方向に流れを付け替えたのである。

当然地元責任者として、入江常真法師がこの大事業に心血を注いだのである。結果、光明寺檀家を始め、地域の人々も工事を手伝ったようである。

「常心」の地名由来は常真法師の功績を称え、寺のあった場所を常真法師の名より、「常心」と漢字を変え命名し、現在も受け継がれている。



四ツ辻にある道しるべ

『 国際平和ポスターコンテスト選考会 』を行いました

青少年指導委員長 松本敏秀

今年の国際平和ポスターコンテストは「限らない平和」をテーマに、市内小学校 4 校（神拝、玉津、飯岡、橘）から 27 点の作品の応募を頂きました。10/22 の例会にあわせて選考会を開催し、“平和”をイメージして自由な発想で描かれた力作ぞろいの作品群で甲乙つけがたい中、描写力・構成・色彩・獨創性 4 項目の評価基準で審査するクラブメンバーも、何度も往復して確認するなど真剣そのもので、各々優れていると思われる作品に投票しました。11 月 14 日（木）～11 月 28 日（木）までの期間、西条市立西条図書館 1 階ロビーにて改めて全作品を展示いたしますので、ぜひお立ち寄り頂きご覧ください。



編集後記



「人の群れ だんじりが行く 稲穂道」

いいお天气に恵まれた西条祭りが無事終了しました。  
天高く 馬肥ゆる 秋。柿、梨、そしてぶどう。おいしい果物が目白押し。  
この素晴らしい秋を充分に楽しんでください。

MC・広報委員 村上公明

発行者 会長 瀬川寛清 (表紙題字「西条」筆)  
幹事 越智美和  
[MC・広報委員会]  
委員長/副委員長 寺川治美/盛實正人  
編集委員 越智英明・村上公明・山本周司・森下雄一  
例会日 毎月 第1・第3火曜日 (12:30~13:30)  
例会場 西条商工会館  
発行 西条ライオンズクラブ事務局  
印刷 プリントワールド ONO

西条ライオンズクラブ

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市779-8  
西条商工会館 1F  
TEL (0897) 56-3980  
FAX (0897) 56-9251  
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp  
ホームページ http://saijo-lions.jp  
facebook http://facebook.com/saijo.lions/